

友だちと一緒に遊ぶ「幸せな時間」

朝、子どもたちが登園すると、リュックや荷物を保育室に置いて、園庭に出てきます。誰かが外に出ると、それを見ていた誰かが外に出てきます。次々に子どもたちが外に出てきます。

そうすると自然に遊びが始まります。雲梯に登ったり、ブランコに乗ったり、追いかけてっこをしたりして、大喜びで遊んでいます。とても楽しそうです。

子どもたちは、友だちと同じ場所で一緒に時間を過ごし、かかわりを通して、信頼関係をつくっていきます。

さらに、そういう遊びの中で、子どもたちは他の子の動きをまねたり、友だちがつまっている言葉を話したり、友だちのうれしい気持ちや悲しい気持ちに共感したりして、成長していきます。子どもたちにとって友だちとの遊びは、「学び」そのものでもあります。

このコロナ禍の中、このような幸せな時間を大事にしてあげたいと思っています。



できなかったことが、できるようになる



子どもたちが、鉄棒で前回りおりの練習をしています。「ピョンと跳んで」鉄棒に上がったなら、『こんにちは』をします。」
「そうしたら、ひざを曲げて、おしりを振るんだよ」。これで子どもたちは、どんどん前回りおりができるようになっていきます。

できないかったことができるようになったり、わからなかったことが分かるようになったりするのは、誰だって、本当にうれしいものです。

信頼できる先生がそばにいて見ていてくれると、子どもたちは、勇気を出して「えい、やっ！」と、新しいことに挑戦できます。新しい世界へ踏み出していきます。

その時、そばにいる先生のポイントを押さえた言葉かけが、決定的に重要になります。簡単なようですが、誰でもできるわけではありません。そして、そのような指導は、なかなか外からは見えません。教師はそういう仕事に毎日取り組んでいます。